

小千谷市第2地区民生委員児童委員協議会会報

令和7年10月3日発行

ゆりかご 第22号

発行者：小千谷市第2地区民生委員児童委員協議会 会長 小川恭男

《民生委員児童委員 18 年を振り返って》

第2地区民児協 会長 小川 恭男

第2地区民生委員となり、先輩委員から引き継がれた地区会議での話しやすさ、又年一回の地区委員一泊研修により委員同士の信頼が深まり絆となり、活動がスムーズに進められています。担当地区内においては高齢者から信頼され気軽に相談を受けられ心から民生児童委員になれたことが喜びに繋がりました。

それと市全体の県外研修でも他地区より常に多くの参加者となり、出席した全員でチンドン屋や合唱などを交流会で行った事が楽しい思い出となっています。

最後に、新たに民生児童委員・主任児童委員になられた方々と、第2地区民児協の良い所を引き継がれより良い第2地区民児協となる事を心から願っています。



《地域支え合いに思う》

篠田 信夫

民生委員は高齢者の見守りや、行政との繋ぎ役が本来の役目なのですが、最近はヘルパーさんや、ケアマネージャーさんより困り事の相談が多くなって来ています、ゴミ捨て、玄関前の雪かきなどで、又行政でも保健事業でも解決できない困り事、これこそ地域での支え合いで助け合う事だと思います。

これから高齢者が増えて来て、様々な困り事が出て来ます。支え合い、助け合いが必要になって来ると思います。

高齢者が安心して暮らせるように助け合いの輪が地域（町内）にひろがるように活動して行きたいと思います。



町内会長会と地域支え合いについて意見交換



救急救命講座



要介護者の移動講習



要介護者の移動講習

《民生・児童委員活動を振り返って》

清水 みはる

委員として5期15年は、あっという間でした。新任時は、とにかく町内を知ろうと義務感で訪問や多くの研修に参加。3期目当たりからはようやく深入りせずに肩の力が抜けた状態での活動ができた気がします。

15年前とは比較にならない程、少子化が進み、学校関係の考え方の変化や、老人の一人暮らしが増え、その親子関係も極端に希薄になりました。委員活動の基本である「専門機関への繋ぎ役」だけでなく、「家族の一員のような寄り添い・見守り」が必要で「命を守る最後の砦は民生・児童委員である」と思っています。

結構大変な状況にも接しましたが、温かい第2地区の委員さん他、沢山の方々と接されたこと、様々な場所に研修に出向くこともでき、とても楽しく生き甲斐のある日々でした。何よりも「生きるための術」を沢山学べました。

後期高齢者の私も残りを「生涯学習」をモットーに前を向いて、上を向いて、自分らしく、しなやかに素敵な人生をと思っています。

最後になりましたが、沢山の方々に感謝カンシャです。ありがとうございました。

《9年間を振り返って》

猪俣 美和子

私が民生委員になった時、親の介護をしていました。時には県外研修の旅行先に施設から電話がきた事もありました。介護をしながらでしたが定例会、各種研修などで勉強させていただき助かりました。家で介護だけでなく民生委員をやった事で、社会と繋がりが出来て良かったと思っています。

民生委員1期目、何もわからずただがむしゃらでした。2期目になってようやく少しずつ分かってきて、3期目で担当地区の方々から信頼していただけるようになりました。

定例会の情報交換にどれだけ助けられた事でしょうか。何でも受けとめてくれた第2地区の皆さん#ありがとうございました！！

《9年間の思い》

椿 伸子

受けて良かったのか、続けて良いのかと悩みながらの活動も終わります。でも今は心から受けて良かったと思っています。様々な研修で福祉を学び、地域の皆さんとの交流も沢山出来ました。

何より第2地区の委員の皆さんとの出会いに感謝しています。常に真摯な気持ちで活動する皆さんを拝見していて学ぶ事が多かったです。

第2地区の皆さんお世話になり、本当に有難うございました。

《退任にあたって》

丸山 京子

早いもので大任を引き受けて9年。悩みながらの始まりでした。高齢者のお宅を回り始めてから町内の人達の事を本当にわからない事に気がつきました。始めはあいさつをするだけだったのが、話してくれる様になりうれしくなりました。

いろいろな事がありましたが、皆さんのおかげで何とか終わることが出来そうです。毎年春に調査票が来るたびに高齢者が増えて来ることは大変だと思います。

長い間お世話になりありがとうございました。

《民生児童委員活動を振り返って》

長谷川 英一

平成30年から今までの間で、印象に残った事柄がいくつかあります。

民生児童委員になりたての頃に80代中頃の男性から朝早く電話があり、急いで駆けつけ、救急車を呼び病院へ搬送、大事に至らなくて良かったです。

その他、認知症の姉妹の世話を姉の夫がしている家庭、若手が同居しているので現況調査の対象ではないので分からなかった。認知症の家族の大変さが分るようになりました。

そして一人暮らしの認知症の高齢者の安否確認の不便さを知ることになる。施設へ入所してそのまま帰れない人、その家が空き家になってしまう。又コロナ感染症で高齢者の安否確認も大変な思いでマスクを付けて訪問し、体力のない高齢者は亡くなる方も。

配色サービスでは雪のある時、「悪いけど灯油を入れて貰えるか」と聞いてきました、その人は両足が不自由で、ファンヒーターに灯油を入れたのを思い出します。

《退任にあたって》

笹崎 謙一

任期途中から委員になり、いきなりの現況調査でありました。今まで経験したことのない高齢者世帯の訪問で、怪訝そうに疑われる事もたびたびありました。

ほぼ月に一度の見守り訪問をすることにより、喜ばれるようになり良かったと思ったものです。

また民生委員としてでなければ経験できない事も数件あり、民生委員として繋げることが出来て良かったと思ったことや、あれで良かったのかとも思うこともありました。

第2地区の皆さんが忙しい中でも、まとまって活動に取り組んでいる事に感謝いたします。今後もお世話になることもあると思いますのでよろしくお願いします。

《退任にあたって》

廣井 直樹

任期途中から引き継ぐ事になり何も解らない中、初めての定例会冒頭で民生児童委員信条の唱和を聞き、今までに聞いた事のないすごいことを、皆さんで朗読していると驚きました。

一人暮らし高齢者世帯の自宅訪問で、在宅中なのに呼んでも玄関に出てこられない。電話をしても留守電になる。近所の方に聞いても用事が足らないという話がありました。元気な顔が見られればそれでいいのですが、なかなかうまくいきませんでした。

最後になりますが、皆様にご指導頂きながら、任期を務めさせて頂きました、お世話になりました、ありがとうございました。



東山小学校生徒による闘牛説明会

《退任にあたって》

谷内 一也

この夏も町内の子どもたちとのラジオ体操に参加しました。幼・保の子から 80 代の方まで 20 人ほどが輪になります。集まった仲間と一緒に体操は爽やかです。「子どもと一緒にいいですね」「元気が出ますよね」の声も聞こえます。

今までラジオ体操は、小学生にとっては健全な夏休みづくりに、高齢者には運動の機会に、等と思っていましたが、いつからか、こうやって顔を合わせることで、集まることから人の繋がりが、助け合いが始まっていくんじゃないかと思うようになりました。定例会等の話し合いでその大切さに気付かせてくれた民児協やそのメンバーの方々に感謝しています。

《主任児童委員退任にあたって》

廣井 望美

無知のまま主任児童委員に就き 6 年。定例会や部会、研修等で初めて知ることが多く、主任児童委員としても私自身としても勉強になることが多かったです。

保育園、認定こども園、小・中学校への訪問の時は、元気な姿が見れるのが楽しみでした。知っている子がいると、ついつい探してしまいます。

退任後も見守っていこうと思います。



ひばり認定こども園訪問